

第3回 湖西市総合計画審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和7年7月29日（火）10：30～12：00
開催場所	湖西市役所2階 市長公室
委員	（出席者）12人 （事務局）5人
内 容	
1 開会	事務局 企画政策課長があいさつ、資料確認
2 会議	（菊地会長） ・ 本日は第3回目の総合計画審議会であり、具体的な実践計画について議論が始まる。 ・ 今後10年、20年後の湖西市にとって重要な計画である。 ・ 率直な意見を交わしていただきたい。 ・ 最初の議題は「今後の進め方」について、事務局から説明をお願いしたい。 【議題(1) 今後の進め方について】 （事務局） ・ 今回お願いしたいことは、基本構想の時点修正案と第2期実践計画案の市長への答申。 ・ 詳細な事業内容について話すよりも、留意すべき事項を意見として、市長への答申を行うことが目的。 ・ 湖西市総合計画は、個別計画の最上位に位置し、地域防災計画や立地適正化計画がこれに基づいている。 ・ 審議会で議論する内容は総合的なもので、具体的な施策は個別計画に記載される。 ・ 総合計画は基本構想と実践計画の2本立てで、基本構想は2040年の理想を描いたもの、実践計画は市長の任期に合わせた4年単位の計画。 ・ 実践計画では、テーマ達成に向けた重点事業や数値目標を設定し、審議会で意見をもらいたい。 ・ 各課から重点事業と基本事業を洗い出し、第2期実践計画の目標達成に向けた事業を設定。 ・ KGIやKPIを設定し、成果指標を達成するために市として取り組みを進める。 ・ 審議会のスケジュール案を説明。最終確認は10月に行い、パブリックコメントを経て答申予定だが、審議会の議論が深まっていない場合、スケジュールを調整する可能性

あり。

- ・ 本日の議論の要点として、実践計画の内容確認、重点事業が適切かどうか、目標達成に向けた確認をお願いしたい。

(菊地会長)

- ・ 改めて確認をすると、審議会の最終目的は市長からの諮問に対する答申作成。
- ・ 今後の予定として、審議会の意見を踏まえ、事務局で内容を精査し、次回審議会で内容を固める。
- ・ 計画案の完成は次回の10月の審議会で予定されているが、意見がまとまらない場合は再度検討するので、委員の皆様からは活発な意見を出して議論してほしい。
- ・ 実践計画のテーマ目標は「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」の2つ。この2つの目標に向けて、個別施策が整合しているかどうかを議論してほしい。
- ・ 次に進む前に、「今後の進め方」について意見や質問があるか確認。

⇒ 特に意見は出なかったなので、そのまま次の議事に進行

【議題(2) 第Ⅱ期実践計画の体系図、個別施策（地域づくり、産業経済）について】

(事務局)

- ・ 改めて説明するが、実践計画のテーマは、田内市長の思いを反映した「魅力ある湖西市を子どもたちへ～実際につなぐチャレンジ～」。目標は「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」の2つ。
- ・ 「暮らしやすさの向上」の評価には市民意識調査の「住みやすいまちと思うか」を数値目標として使用。「元気なまちの実現」には新たに「にぎわいのあるまちだと思うか」の質問を追加。
- ・ 最終目標として「住み続けたいまち」を掲げ、数値目標を設定。
- ・ 個別施策について説明。施策の小分類ごとに重点施策を設定し、重点施策を審議会で議論していただきたい。
- ・ 変更点として、社会情勢に対応するため、実践計画は別冊資料として更新可能な形にすることを説明。基本事業は別冊資料に記載し、年に一度更新していく。
- ・ 実践計画はウェブサイトアップし、印刷物としての冊子は作成しない方針。
- ・ 引き続き個別計画について説明。まずは地域づくりと産業経済の分野から説明を開始。
- ・ 防災減災や交通安全、共生社会、土地政策、産業支援などの重点事業が説明され、各分野について意見を求めたい。

(菊地会長)

- ・ 限られた時間で、実践計画に記載された重点事業や基本事業について意見を求める。
- ・ 初めに、大分類「地域づくり」と「産業経済」について意見を求める。
- ・ 委員各位の専門的な知見を活かして忌憚のない意見を求めるが、自分の専門外でも、問題点や提案を自由に述べてほしい。

(中村委員)

- ・ 資料を見て、審議会で議論した内容が反映されていないことにがっかりしている。
- ・ 住宅地の安価提供について提案したが、それが反映されていない。
- ・ 優良田園住宅制度を導入したことが進展として紹介されているが、それだけでは安価な土地供給は進まない。
- ・ 期待した土地・住宅政策の KPI も不十分で、具体的な進展が見られない。
- ・ 行政が制度を作って運用するだけでは不十分で、実際に推進役を立てて推進すべき。成功している市町の施策は、推進役が積極的に動いている事例が多い。市役所は制度作成だけでなく、積極的に推進役を立てて事業を進めるべきだと強調。
- ・ 空き家問題や住宅問題についても、KPI 設定を充実させるべき。
- ・ 優良田園住宅などの施策を進めるためには、市役所だけでなく、商工会などとも連携して推進することが重要。
- ・ 外国人住民の日本語教育についても、限られた予算内で対応するだけでは不十分で、外国人を多く雇用している企業にも何か考えてもらうような施策は打てないか。企業から資金を提供させる方法を提案し、外国人子どもたちの日本語教育を充実させるのはいかがか。

(小林委員)

- ・ 外国人の子どもが増えているため、日本語教育が必要であり、小中高校で指導に困っている現状がある。
- ・ 湖西市として、具体的にどのように日本語教育を進めるか、明確に示してほしい。
- ・ 一人ひとりの子どもを支援するために、どのような対応策を取るべきかを設定することが重要。
- ・ 日本語教育に加え、外国人が湖西市で直面している問題や不安を解消する方法も考える必要がある。
- ・ 相談場所が限られており、外国人がどこに相談に行けばよいかわからない問題がある。
- ・ 以前の多文化共生プランで提案された「多文化共生センター」の設置案が、現在では進展が見られなくなっている。センターがあれば、外国人の暮らしが改善され、将来的に育った外国人児童が安心して暮らせるようになる。
- ・ 日本語教育と多文化共生センターの設置を進め、湖西市全体の安心・安全に繋がるこ

とを期待したい。

(伊藤委員)

- ・ 空き家問題について、一人暮らしの方が亡くなった後、法的な問題で取り壊しができず、放置されている家が多いと感じている。市でも法整備など必要なことを進め、取り壊しを進めるべきでは。
- ・ 交通安全や防災、観光分野にも関わるが、301号線の自転車利用者が増えており、危険に感じることもある。特に土日が多い。自転車道の整備を進め、海岸沿いや他の道路を使って自転車道を整備する方法も考えたいかがか。

(事務局)

- ・ 住宅地や土地に関して、市街化区域への道路整備や下水道、水道などに多大な予算を投入してきた。しかし未利用地が多いのが現状。今後の湖西市の未来を考慮して、まずは市の重点事業としてそのエリアの整備を進めるべきと考えている。
- ・ 優良田園住宅の推進も重要だが、重点事業は別に設定し、優良田園住宅制度は基本事業に位置付け進めていきたい。

(中村委員)

- ・ 住宅地域の土地は地主が売らないため、高値で取引され、結果として土地が買えない状況が続いていると考える。
- ・ 住宅地域が整備されて土地が売れ、住宅が建つのは理想的だが、現状ではそれが実現しない。同じ問題が30年前から繰り返されていると感じており、今も同じような議論がされている。
- ・ もっと踏み込んだ対応をすべきであり、当たり前の回答では問題は解決しない。

(菊地会長)

- ・ 土地政策に関して、重点事業が「多極ネットワーク型のコンパクト化を図る街づくりの推進」として、市街化区域を優先する内容になっているが、これはこれまでの審議会でも議論してきた内容と一致しているか疑問に思う。
- ・ 各部局の意向や事情もあると思うが、本審議会の審議内容が反映されない場合、委員会での議論が無意味になってしまうのではないかと懸念される。時間的な制約もあるとは思いますが、内容の変更は難しいのか確認したい。

(事務局)

- ・ 内容の変更は今日の議論も踏まえて、改めて提示することは可能である。

(中村委員)

- ・ 新所原、鷺津エリアには住宅地域が多いが、優良田園住宅制度が導入された白須賀地区や知波田地区は厳しい状況であると思う。
- ・ 優良田園住宅制度で土地を提供して家を建てる取り組みが行われているが、別に湖西市が大きな負担をするほどではない。
- ・ 現在の住宅地域は地主が土地を高値で売らず、湖西市に勤める人々が家を建てることのできない状況。
- ・ 高い土地を売るより、土地を取り崩して安く提供すれば結果的に全体で土地が安くなり、需要が自然に高まる可能性がある。

(事務局)

- ・ 土地政策の 14 ページに重点事業の内容として「都市拠点や地域拠点だけでなく、主要集落エリア多極ネットワーク型のコンパクト化を図る街づくり」とあり、その文章にこれまでの議論を反映し、街づくりを進めていくという内容を包括していると考えている。
- ・ 中村委員の指摘通り、KPI が少ないため、居住誘導について具体的に何を行うかの明確化が必要だと考えるため、この表現を改善し、見直しを図っていく。

(中村委員)

- ・ 土地政策に関して、10 項目ほどの KPI を作成し、それぞれが具体的に何を行っているかを示してほしい。
- ・ 中途半端な言葉で曖昧にされるのは意味がない。
- ・ 総合計画では、具体的に深掘りして重要な部分を明確にすることが重要ではないか。全部をやる必要はないが、重要なテーマにはフォーカスし、それを強化することが必要。

(彦坂(美)委員)

- ・ 土地政策やその他の計画について、全体的に成果指標が大きすぎたり曖昧であると感じている。
- ・ 計画の期間が 4 年間と限られているため、細かすぎても問題があるが、あまりにも大きな指標では、課題解決に結びつかないのではないかと。
- ・ 以前の議論で焦点を当てた具体的な内容が反映されていないと感じる。
- ・ 個別の計画で具体的な施策への記載と考えているだろうとは思いますが、その旨を口頭でも良いので伝われば審議会委員としても安心できる。
- ・ 土地に関する話の中で法整備が出たが、市街化区域については市だけでできることと

できないことがある。県が関わる部分もあるため、市でできることと県に働きかけるべきことを明確にする必要がある。

(彦坂(昇)委員)

- ・ 総合計画には大目標（暮らしやすさ、元気なまち）があり、それに対して具体的な個別計画が作られるべきだが、資料では具体的な取り組みがどこに反映されているのかが不明。
- ・ 各部局が具体的な方針に基づいて、どのように取り組むかを示す必要があり、KPI もそれに基づいて設定すべき。
- ・ 具体的な取り組みが曖昧で抽象的な表現になっており、それをどう実行に移すかが示されていない。
- ・ 成果目標として掲げられている数値が現状維持に過ぎず、具体的な施策や目標達成のためのアクションが欠けている。
- ・ 財政的な制約があれば知恵を使って対応策を考えるべきであり、その具体的な策を示すことが重要。
- ・ 各部局がどれだけ頑張っているかが見えるようにするべきであり、目標を達成するためのサイクルを回していく必要がある。成果を出すためには試行錯誤が必要であり、サイクルを回さないと結果は得られない。市民の理解を得るためには、毎年サイクルを回して進捗を確認し、足りない部分は改善していくべき。
- ・ これからの議論においては、徹底的に議論し、時間をかけて具体的な計画を作り上げるべき。
- ・ 今後の審議会は、各部長や課長が出席し、具体的な思いを伝える場にするほうが良い。

(宇田委員)

- ・ 現状と課題は的確に把握されており、今後やらなければならないことも理解されているが、実際に解決するために何をするかが不明瞭。
- ・ 成果指標において、一次産業従事者数が増加する目標が示されているが、その目標を達成するための重点事業が繋がっているのか、結果に表れるのか疑問。現状と課題は見えているが、具体的にどう進めていくかが事業からは見えにくい。
- ・ 農業に関しては後継者不足や従事者不足が深刻であり、新規就農者もいない中で従事者数を増やすという目標は良いが、湖西市がどれだけ力を入れているのかが見えてこないと感じている。

(鈴木委員)

- ・ ジェンダー平等の成果指標を市民意識調査で測る際、湖西市に住んでいるが他市で働いている人の意見も反映されるため、少し整合性に疑問を感じる部分もある。

- ・ 21 ページの産業人材の確保に関して、若者の流出が課題となっているが、取り組みが学校や企業との連携強化にとどまっており、県外の大学に進学した学生に対するアプローチが必要だと感じている。
- ・ UターンやIターンを促進するため、他市町で実施している奨学金返済補助など具体的な施策が必要で、湖西市で働き、最終的には住んでもらうためのストーリーも重要。

(松下委員)

- ・ 年度ごとの具体的なプロセスが見えにくいため、重点項目をより分かりやすくしてほしい。
- ・ 土地政策の成果指標には、市街化区域内の人口しか記載されておらず、市街化調整区域についての指標欠けている。市街化調整区域の議論は一部排除されて指標として明記されておらず、この点が解明されていないのは如何か。
- ・ 重点事業は市街化区域と市街化調整区域を分けて記載し、特に市街化調整区域については行政が優先して取り組むべきでは。
- ・ 外国人の日本語支援は重要だが、共生社会として外国人自らも地域の自治会活動にも積極的に関わるべきだと考える。日本語だけでなく、地域活動への参加を促進し、地域社会に顔を出すことが重要ではないだろうか。
- ・ その活動が観光の発信にもつながり、共生社会の観点から強力な支援になると感じている。

(片山(雅)委員)

- ・ 調整区域内で人が住めない場合の解決策は時間がかかることを理解しつつ、調整区域の活用方法を効率的に模索するべき。例えば工場を建てる可能性があることを明示したり、農業系の工場も建てられたりする点をアピールするのはいかがか。調整区域の活用方法を明確にすることが重要で、具体的な施策が必要だと感じている。
- ・ 工業系の補助金交付についての記載が具体的すぎるのではと懸念している。
- ・ 日本語教育に関して、外国人の子どもたちが日本語を学ぶ必要性について、教育委員会や学校の取り組み状況も確認する必要がある。外国人の子どもたちは、個人主義が強く、日本語を学ばなくても不便を感じない場合があるため、選択肢を提供することも重要。
- ・ 災害時の対応について、サポートナース登録者数や訓練の重要性に言及し、情報収集能力の向上が求められると感じている。小規模な避難所などでの対応が必要な場合の計画が十分でないと感じ、情報収集を改善し、計画に反映させるべきだと感じた。

(菊地会長)

- ・ 時間の都合もあるため、次に進むこととする。事務局は内容を再精査してもらいたい。
- ・ 残りの4つの大分類について一括で説明をお願いしたい。

【議題(2) 個別施策（育み・学び、健康福祉、くらし環境、行政経営）について】

(事務局)

- ・ 時間がないため、大分類と小分類名だけを説明。
- ・ 一部「循環型社会」と「都市インフラ」については、第1期実践計画には記載のない新しい分類であることを補足した。

(菊地会長)

- ・ 多岐にわたる内容で、委員の皆さんから聞きたいことが多いと予想される。
- ・ 今日の議論だけで集約するのは難しいため、今後の進め方は事務局と相談しながら検討するが、次回以降も議論する前提で、残りの時間で委員から出しておきたい意見を求めたい。

(彦坂(美)委員)

- ・ 子育ての現状と課題に関して、入所待ち児童が100人程度いるとあるが、実際の必要性がどれほどなのか。希望が集中している園もあるが、データを取った時点での全ての入所待ち児童に対して園の確保が本当に必要なのか精査が必要である。
- ・ 経済的な負担軽減を求めるニーズが増加しているが、それが保育所に入れない理由ではないのではないか。
- ・ 保育士会として、人数に応じるだけの園が必要かどうか、慎重に考えるべきだと感じている。新しい園の設立については、地域の保育園状況も考慮し、設立後の影響を検討する必要もある。新しい園ができれば入所待ち児童は解消される可能性があるが、人口減少を考慮しないと、定員割れの施設が出て経営に影響を及ぼす可能性がある。新しい園が逆に市の保育力を低下させることもありえる。
- ・ 病児・病後児保育も必要だと思っているが、民間での運営は経済的に難しく、事業が存続する方法を考えるべき。公立で行う必要がある場合は、公立での運営を検討することも重要。
- ・ 障害者福祉について、障害児支援に対する記載が見えにくいように感じるため、障害者福祉とともに幼少期から子どもや教育の支援が進められるような見せ方も必要だと感じた。

(西川委員)

- ・ 具体的な内容が少し見えにくいと感じているが、別冊資料として 1 年ごとに見直しをかけていける方法は良いと考えている。学校教育などの計画は年々変わるため、細かい部分を計画に入れると見直しが難しくなると認識している。
- ・ 目標値が低すぎると感じ、特に ICT 機器の活用については、もっと高い目標を設定しても良いのではないかと。
- ・ 既に行われていることが多く含まれているため、新たな取り組みを計画に追加しないと、何が変わるのかが見えにくい。
- ・ 農業漁業に関しても、実家が養鰻業を営んでいるため、ウナギの放流などで実際に計画通りに漁獲量が増えるとは限らないと感じた。
- ・ 計画には、わかりやすい部分や時期的な要素をもっと入れるべきだと提案。
- ・ 質問だが、実践計画の大分類（暮らしやすさの向上、元気なまちの実現）が 5 つに分かれているが、市として最優先するものを明言することはできないのか。例えば、人口や土地の問題について最優先するものを出すべきではないかと考えており、その点についての余白はあるのか。

(事務局)

- ・ 総合計画の作り方もいろいろあり、そういった形で今後ピックアップして優先順位を上げていくことは可能。

(宇田委員)

- ・ 現状と課題について、成果指標がふわっとしていて、達成可能な範囲に見えてしまう。市民から見ると、行政がもっとやっているはずだと思っても、この紙面だけでは緩い行政をしているように見える。実際にはもっときちんとした取り組みがされているはずだと思うので、もっと目に見える、具体的な指標を示すべき。

(彦坂(昇)委員)

- ・ 市民意識調査の結果を評価に使うことについて、無作為の調査だけでは評価が難しい部分もあると思うので、実際に課題に関わる人たちの評価を使うのはいかがか。
- ・ 例えば、市の会議や評議員の意見を評価に反映させるのはどうだろうか。メンバーが変わっても 4 年前と比べて、関係者がどれだけ変化を感じているかを評価基準にすることが一番正確な評価方法だと感じている。専門的な分野では、その場での評価を成果指標の一つとして取り入れることも重要ではないだろうか。そのような使い分けをすると、よりわかりやすくなると思うので一考願いたい。

(菊地会長)

- ・ 時間が迫っているため、最後に片山副市長から発言をいただきたい。
- ・ 各部局からボトムアップで計画を作ることは重要だが、長期的にはトップダウン的なアプローチも必要だと感じている。トップダウンの必要性も踏まえて、副市長の意見を求めたい。

(片山副市長)

- ・ 8年前の計画では人口増加を目指していたが、現在は減少を受け入れて施策を進めるべきだと感じている。
- ・ 各委員が専門分野で様々な意見を述べたことに対し、事務局がそれを反映させることが大切だと考えているが、今の状況に適応した計画を作ることが重要であり、その点を理解してもらいたい。

(彦坂(昇)委員)

- ・ 今の状況に現状を反映しているのであれば、もっと違ったまとめ方になると感じる。

(中村委員)

- ・ 人口減少は仕方ない部分があるが、湖西市としてもっと特別な対策も必要である。
- ・ 湖西市には土地が高いため住む場所がなく、魅力がないわけではない。
- ・ 何もしないまま計画が進んでいったことを批判し、今回は積極的に進めるべき。
- ・ 皆の意見を取り入れて、今後の計画に積極的にメスを入れることを期待。

(片山副市長)

- ・ ディベロッパーによる開発が進められる点には理解を示しつつ、インフラ整備との兼ね合いがある点を再確認。

(中村委員)

- ・ 市が金を使わなくても、ディベロッパーが開発する際にインフラ整備に取り組めば問題を解決できる。
- ・ 過去 30 年、何も進めてこなかった総合計画の問題を指摘し、今後の計画に対する期待を表明。

(菊地会長)

- ・ 時間が来たため、言い足りない部分は、実践計画案の質問書や意見書に記入して事務局に送ってもらいたいと依頼。

- ・ 今日の議論を踏まえ、事務局が各部局とやり取りを行う必要があると感じており、その結果を反映させるために協力をお願いしたい。
- ・ 今回議題３にある人口推計については、時間の都合で次回に回す。

3 閉 会

(事務局)

- ・ 実践計画や KGI の設定方法についていただいた意見を持ち帰り、調整を図る。
- ・ 審議会の進行方法についても、より良い形にするために議論を反映させて進めていく。
- ・ 第４回審議会の日程調整は事務局から改めてお知らせする。
- ・ 意見様式は８月８日までに提出をお願いし、会議を終了した。